雨のにおいは、雨のにおいではない

年　組　番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

この紙のゴール：初めて読む英文から、大意と必要な情報を制限時間内につかむ　／　本文はこの教材のための書き下ろし（初見用）です。

Before the rain arrives, the air sometimes carries a smell. People call it the smell of rain. But water itself has almost no smell.

Most of that smell comes from the ground. When the weather is dry, oils from plants collect on soil and stones. At the same time, some bacteria in the soil make a substance called geosmin. Both of them sit there and wait.

Then the first drops fall. Researchers say that a drop landing on dry ground traps a little air under itself. The air escapes as tiny bubbles, and the bubbles carry the oils and the geosmin up into the wind. What reaches your nose is not the rain. It is the ground.

Our noses are very good at finding geosmin. Scientists report that people notice it even when the amount is extremely small. The smell is strongest after a long dry spell, because the oils have had more time to collect.

So the smell of rain is not really the smell of rain. When we name a cause, we tend to choose the part that is easiest to notice. Before you decide what caused something, look once at the quiet thing that was already there.

〔語注〕 soil＝土　bacteria＝細菌　substance＝物質　dry spell＝雨の降らない時期

設問　本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) この文章がいちばん伝えたいことは？ 思考・判断・表現　答え（　）　3点

ア　雨が降り出す前に感じるにおいは、雨粒そのものがもっているにおいが風で運ばれてきたものである
イ　土の中の細菌は、雨が降ったあとになってから、においのもとになる物質をつくりはじめる
ウ　「雨のにおい」と呼ばれるものは、雨ではなく、乾いた地面から舞い上がったもののにおいだ
エ　においを感じられるかどうかは人によって大きく異なり、まったく感じない人のほうが多い

(2) においのもとになるものとして、本文が挙げているのは？ 知識・技能　答え（　）　3点

ア　植物から出た油と、土の中の細菌がつくる物質
イ　雨粒の中にとけこんでいる、空気中のちりやほこり
ウ　地面の温度が上がったときに石そのものから出てくるガス
エ　風によって遠くの森から運ばれてくる、木の葉のにおい

(3) 雨粒が乾いた地面に落ちたとき、何が起きると書かれているか？ 知識・技能　答え（　）　3点

ア　雨粒が地面の温度を下げ、そのときに出る水蒸気がにおいをつくる
イ　雨粒が土を深くほり、下にうまっていた古い葉を地上に出してしまう
ウ　雨粒が石にぶつかって割れ、その割れ目から地下のガスがふき出す
エ　雨粒の下の空気が泡になって出ていき、においのもとを運ぶ

(4) 最後の段落で筆者が言っているのは？ 思考・判断・表現　答え（　）　3点

ア　においについての研究はまだ始まったばかりで、確かなことはほとんど分かっていない
イ　雨の日はできるだけ外に出ず、においを楽しむなら窓を少し開けておくだけでよい
ウ　原因を決める前に、そこにずっとあった目立たないほうを一度見てみるとよい
エ　人の鼻はとても敏感なので、機械よりも正確にものを見分けることができる

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

雨のにおいは、雨のにおいではない（基礎）｜解答と出題のねらい

解答

(1)	ウ	第1段落 But water itself has almost no smell. と第3段落 What reaches your nose is not the rain. It is the ground.。
(2)	ア	第2段落 oils from plants collect on soil and stones と some bacteria in the soil make a substance called geosmin。
(3)	エ	第3段落 traps a little air under itself. The air escapes as tiny bubbles, and the bubbles carry the oils and the geosmin up into the wind。
(4)	ウ	最終段落 we tend to choose the part that is easiest to notice と look once at the quiet thing that was already there。

出題のねらい　定期テストに移すときの観点マップ

名前のついている原因（雨）と、本当の原因（乾いた地面）がずれているという筋です。16の〈語の意味は場所で変わる〉とも、15の〈数字の由来〉とも、14の〈仕組み→始まりの事実→結び〉とも違う**〈原因の取りちがえ〉型**で、「同時に起きた目立つほう」を原因だと決めてしまう読み手の癖が、そのまま(1)と(4)の設問になります。理科の実験の考察や、資料問題の因果の読み取りにそのまま効きます。読んだあとに「原因だと思っていたが、実は同時に起きていただけかもしれないこと」を1つ挙げさせると、結びが自分の話になります。

設問	型	観点	テストでの使い方
(1)	大意（スキミング）	思考・判断・表現	概要把握。「雨のにおいのしくみ」で止まらず、原因の取りちがえが主題だと届くか
(2)	明示情報	知識・技能	においのもとになる2つ（植物の油・細菌がつくる物質）を、雨粒そのものと取りちがえずに拾う
(3)	明示情報	知識・技能	雨粒が落ちたときに何が起きるか（空気が泡になって、においのもとを運び上げる）を正確に読む
(4)	筆者の結び	思考・判断・表現	結論の2文から、筆者が読者に勧めていることを選ぶ

3つの版の使い分け

同じトピック・同じ設問構造で、英文の語彙・構文と選択肢の言語だけを変えてあります（基礎=選択肢も日本語／標準=選択肢が英語／発展=設問も英語）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と日を空けて再挑戦——の3通りの使い方ができます。正解の記号は版ごとに違います（配り分けのときの写し合い対策にもなります）。

学校・授業での利用は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）